

北海道次世代半導体産業立地推進本部第4回本部会議

令和6年3月27日（水）16：30～16：50

本庁舎3階 テレビ会議室

（土屋副知事）

これより、「北海道次世代半導体産業立地推進本部」の第4回本部会議を開催いたします。それでは、さっそく議事に入ります。まず議事の1、「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」について、経済部から、説明をお願いします。

（青山次世代半導体戦略室長）

「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」について、資料1-1のビジョン概要版に基づき説明させていただきます。

「第1章 策定の趣旨」ですが、本ビジョンは、ラピダス社の立地を契機として、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現するとともに、食や観光、再エネなど本道の強みである産業振興と合わせて、本道経済全体の成長に結びつけていくため、オール北海道で目指す指針として策定するものであり、計画期間を来年度からの10年間とし、当初5年間の重点期間としています。

次に、2ページになりますが、「第4章 めざす姿」をご覧ください。「次世代半導体をつりぐに、世界に挑む北海道」というキャッチコピーを掲げ、「1 実現に向けた全体像」のとおり、まずは、ラピダス社のプロジェクトを成功させることを何よりも重要としながら、半導体の複合拠点を実現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開する中で、その効果を道央圏のみならず、全道に波及させることとしております。

こうした考えの下、「3 複合拠点の実現」に向けては、「半導体関連産業の集積」、「イノベーションの創出」、「人材の安定供給」という3つの方針を掲げ、さらに、次のページになりますが、「5 全道への効果の波及」に向けては、「デジタルの好循環の全道展開」と「地域の付加価値の向上」により、4つめの方針として掲げております「地域経済の活性化」を図っていきたいと考えています。

「第5章 計画の推進管理」では、今後の指標として、「半導体関連企業の出荷額」や「半導体関連企業による道内総生産への影響額」などの7項目の目標値を設定しており、進捗状況につきましては、定期的に把握し、公表することとしています。

今後、全道各地で様々な機会を捉えてビジョンの内容をご説明させていただき、道民の皆様のご理解と共感を得ながら、本ビジョンの下、各般の施策を戦略的に推進し、道央圏のみならず、本道全体の経済活性化と持続的発展につなげてまいります。以上でございます。

(土屋副知事)

はい、ありがとうございました。ただいま説明のありました、このビジョンについて、ご意見ご質問等ございますか。よろしいですか。無ければ、このとおりに決定したいと考えますが、よろしいでしょうか。では、そのように決定いたします。

次に、議事2「令和5年度の半導体関連事業の取組状況」について、関係部長等から説明をお願いします。

(佐藤経済部次長)

経済部です。資料2に基づき、「令和5年度の取組状況」についてご説明いたします。

始めに、半導体関連産業の集積促進や人材育成などに向けた取組についてでございますけれども、次世代半導体製造拠点の本格稼働を見据えまして、製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現していくため、①半導体関連産業の集積促進に向けて、名古屋、東京、熊本の展示会に出展し、ラピダス社が立地を決定した本道の立地優位性のPRを行ったほか、台湾の半導体・デジタル関係団体などを訪問しまして、投資環境プロモーションを行いました。②道内企業の参入促進に向けましては、ビジネス EXPO に出展するとともに、道内企業向けのビジネスマッチングセミナーを開催いたしました。③道民の皆様の理解促進に向けましては、道内6カ所で半導体への理解を深めていただくセミナーを開催しましたほか、④人材育成の取組として、道立高校等への出前講座や若年層向け半導体アニメ動画を作成しました。最後に⑤取組方針・取水調査として、ビジョンの策定に必要な産業構造調査や方向性の検討を行うとともに、取水可能性調査を実施いたしました。

以上です。

(土屋副知事)

次に企業局をお願いします。

(松田企業局次長)

企業局から苫小牧地区の工業用水道配水施設建設事業の令和5年度の取組についてご説明申し上げます。

ラピダス社が千歳市に建設中であります次世代半導体の工場に対しまして、道として苫小牧地区工業用水道から用水を供給することを決定したことを受けまして、企業局において、給水に必要な配水施設の建設事業に着手したところでございます。令和5年10月に経済部所管の「次世代半導体製造拠点取水可能性調査事業委託業務有識者懇話会」の検討結果を踏まえまして、水源候補地を苫小牧工水に道として決定をいたしました。事業の実施のため、令和5年11月に新たに配水施設建設室を設置しまして、専任の職員9名を配置したとこ

ろでございます。令和5年12月には第4回定例道議会におきまして、令和5年度から令和9年度までの建設費に係る債務負担行為限度額を設定する補正予算が議決されたところでございます。また、配水施設のうち、下に図がありますが、22kmの配水管布設工事を3つの工区に分けて、入札公告を開始いたしました。本年、令和6年2月に執行いたしました入札により施工者が決定し、契約を締結したところでございます。以上です。

(土屋副知事)

ありがとうございました。この資料2につきまして質問等ございますか。

無ければ、議事の3「令和6年度の半導体関連事業」について、関係部長から説明願います。経済部お願いします。

(佐藤経済部次長)

経済部でございます。資料3でございます。「令和6年度の関連事業」について説明いたします。

はじめに、半導体関連産業の集積促進や人材育成などに向けた取組についてでございますが、①半導体関連産業の集積促進に向けて、新たに半導体に詳しいコーディネーターを配置し、地域におきます産学官ネットワークの構築・強化に取り組むほか、国内で開催されます半導体関連の展示会や台湾で開催されます展示会に出展いたします。②道内企業参入促進に向けまして、今年度実施しましたセミナーについて回数を増やして実施いたします。③道民の理解促進に向けて、今年度実施しました半導体に関する道民の皆様を理解を深めていただくためのセミナーを14振興局すべての地域で開催いたします。④人材育成・確保に向けまして、今年度実施しました高校生を対象とする出前講座につきまして回数を増やして実施するとともに、小中学生を対象に半導体への理解を促す体験教室も新たに実施することとしております。

次に企業立地促進費補助金につきましてでございます。企業立地促進費補助金は、北海道産業振興条例に基づきまして、本道に工場等を新設または増設する事業者を支援する制度でございます。一定の要件を満たす工場等の立地に対して、助成を行い、企業立地を促進するものでございます。そのうち半導体関連におきましては、電気・電子機器製造業に該当する場合、最大10億円、基盤技術産業に該当する場合、最大3億円の助成を行うことが可能でございます。なお、半導体等デジタル関連産業の集積促進に向け、今後、助成制度の見直しを含め、必要な検討を進めてまいります。以上です。

(土屋副知事)

総合政策部お願いします。

(三橋総合政策部長)

総合政策部から、「海外からの未来産業・DX/GX投資促進事業」の内容について説明させていただきます。

まず、道の海外プロモーション事業につきましては、道ではこれまで、アジアを主な対象として食や観光の分野を中心に展開してきました。こうした中で、昨今の世界的なデジタル化あるいはゼロカーボン化、こうした動きを背景としまして、次世代半導体さらにはデータセンター、海底通信ケーブルといったDX関係の動き、それから、再エネ発電所等のGX関係の関連産業に関する投資の動きが世界的に活発化している状況にあります。こうしたことを背景に、来年度は、北海道のポテンシャルを活かして、こうした分野の国内外の需要を取り込んでいきたいということで、海外向けにつきましては、対象をこうした分野に広げまして、欧米市場を新たなターゲットにして、海外プロモーションを行うこととしております。以上でございます。

(土屋副知事)

建設部お願いします。

(白石建設部長)

建設部でございます。街路事業の受託事業についてご説明申し上げます。

ラピダス社の次世代半導体製造拠点では、令和9年の量産体制の確立を目指して工場の建設が進められておりました、完成後は工業団地内の交通量の増加が見込まれております。千歳市では、交通量の増加等に対応するため、左の図の青色で示しました美々西通と赤色で示した美々南通の2路線の整備を計画しております、令和9年までに完成することとしております。美々南通の内、国道36号とラピダスの工場建設地を結ぶ図では緑色の添え線の区間になりますけれども、JR千歳線を跨ぐこ線橋が計画されております。千歳市では、短期間でこ線橋を整備するためには、高度な技術力を要することに加えて、JR北海道や国道を管理する開発局との協議が必要なことから、こうしたノウハウを有する道へ工事等の施工委託を要請したところでございます。道といたしましては、令和9年までにこ線橋を完成するためには、JRとの立体交差の工事实績が多数ある道において施工することが有効と考えられますことから、当該工事について受託することといたしまして、ちょうど本日、千歳市と設計及び工事に関する協定を締結したところでございます。右の事業内容でございますが、延長は約300m、幅員は20m、事業期間は令和6年度から令和9年度までを予定しております、こ線橋の橋長は約90mの計画でございます。令和6年度の実施内容は、道路や橋梁の調査設計などを進める予定でございます。以上でございます。

(土屋副知事)

企業局お願いします。

(松田企業局次長)

企業局から苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業に係る令和6年度の取組についてご説明を申し上げます。

まず、配水管につきましては令和6年4月以降は、施工方法や道路占用申請などについて関係機関と協議を行いまして、実施設計が終了した区間から順次、現地着工する予定でございます。中継ポンプ場につきましては、令和6年4月から5月頃を目処に、設計・施工一括発注方式と総合評価落札方式これを採用いたしまして、入札公告を行う予定でございます。入札参加者から技術提案と入札価格を求めまして、総合的に評価して落札者を決定するということとなりますので令和6年11月頃に契約を締結する予定であります。以上です。

(土屋副知事)

ありがとうございました。以上、資料3について説明しましたが、ご意見・ご質問等があればお願いします。ございませんか。

無ければ、知事からお話をお願いします。

(鈴木知事)

ラピダス社の立地を契機といたしまして半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現をし、その効果を全道に波及させていくための今後の取組の指針となる「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」を決定いたしました。

ビジョンのめざす姿の実現に当たっては、道民の皆様、事業者の方々はもとより、国、千歳市をはじめとした自治体、さらには経済団体、教育機関などと共有をして、理解と共感を得ていくことが、極めて重要であると考えております。各本部員においては、今後、様々な機会をとらえて、関係者に幅広くビジョンを周知するようお願いいたします。

また、地域においては、大きな期待と同時に、道央圏への一極集中や人手不足などに対する懸念の声があることも十分配慮をしながら、本道全体の経済活性化と持続的発展につなげるようビジョンで掲げている「半導体関連産業の集積」、「イノベーションの創出」、「人材の安定供給」、「地域経済の活性化」、この4つの方針に沿って、各般の施策を戦略的に展開をして行くということとともに、来年春のパイロットライン稼働、2027年の量産製造開始に向けて、特に、来年度は重要な年となるということから、庁内はもとより、国や千歳市など関係機関と一層緊密に連携をして、スピード感を持って取り組むように指示をいたします。

今後、人口減少が一層進行し、地域の社会や経済が縮小する中で、道内各地域の持続的な発展に向けては、豊富な食や観光資源、再生可能エネルギーなど、各地域のポテンシャルを活かし、脱炭素化やデジタル化など時代の変化で生じる国内外の新たな需要を取り込んでいかなければなりません。

特に、GXやDX分野につきましては、北海道は日本全体の発展に貢献する役割が期待をされています。そうした大きな視点の下で取組を進めることが北海道の発展につながっていきます。

そのためにも、日本全体に視線を広げながら、道内各地域のGX、DXのポテンシャルを活かして、道央圏だけではなく、全道域に効果を波及させていくことが必要になります。

このたび策定したビジョンの推進に当たっても、暮らしと経済に関わるあらゆる分野において、地域課題の解決につながるユーザー側の動き、こちらにも注目をしながら、GX、DXの視点で横串を通していくこのことが重要であります。新年度に向けては、こうした考え方、そして理念について、部局横断的に検討・整理をし、全職員がしっかりと共有をしながら、全庁一丸となって各般の施策を進めてまいりたいと考えておりますので、皆さんよろしくお願い申し上げます。私からは以上です。

(土屋副知事)

ありがとうございました。知事からご指示があったことについて、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、第4回本部会議を終了いたします。